



黃 懷龍

1

一、概 論

(一) 概念

浮腫とは、水腫とも呼ばれ、体内に水液が溜まったり、皮膚に溢れたりして、眼瞼や顔面、四肢、腹部、酷くなれば全身に浮腫が生じ、さらに胸水や腹水を伴うこともある病証である。

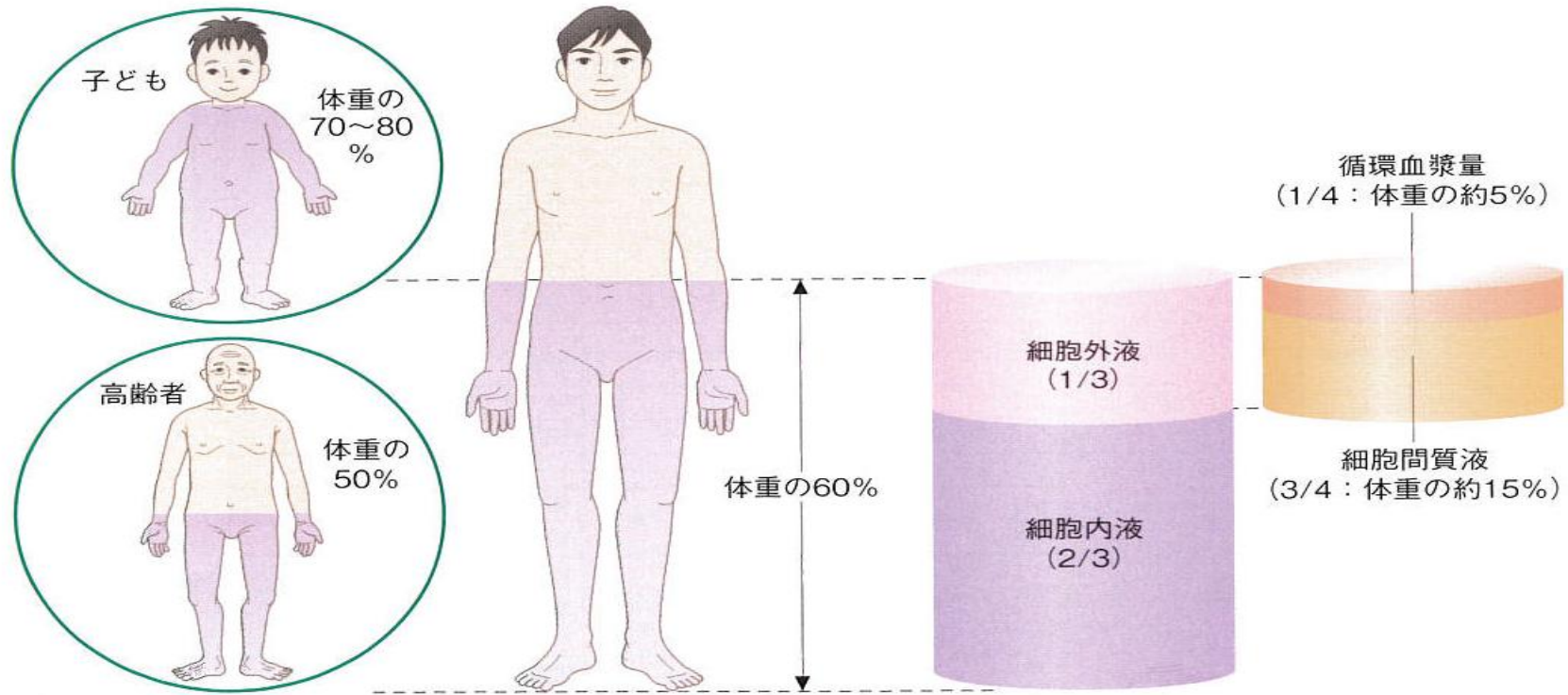
[西洋医学の関連疾患]

- ①心性浮腫：右心不全
- ②肝性浮腫：肝硬変
- ③腎性浮腫：ネフローゼ症候群・急性腎炎・慢性腎炎・腎不全
- ④内分泌性浮腫：甲状腺機能低下症（粘液水腫）
- ⑤低栄養性浮腫：摂食不良・悪性腫瘍
- ⑥突発性浮腫：原因不明の浮腫

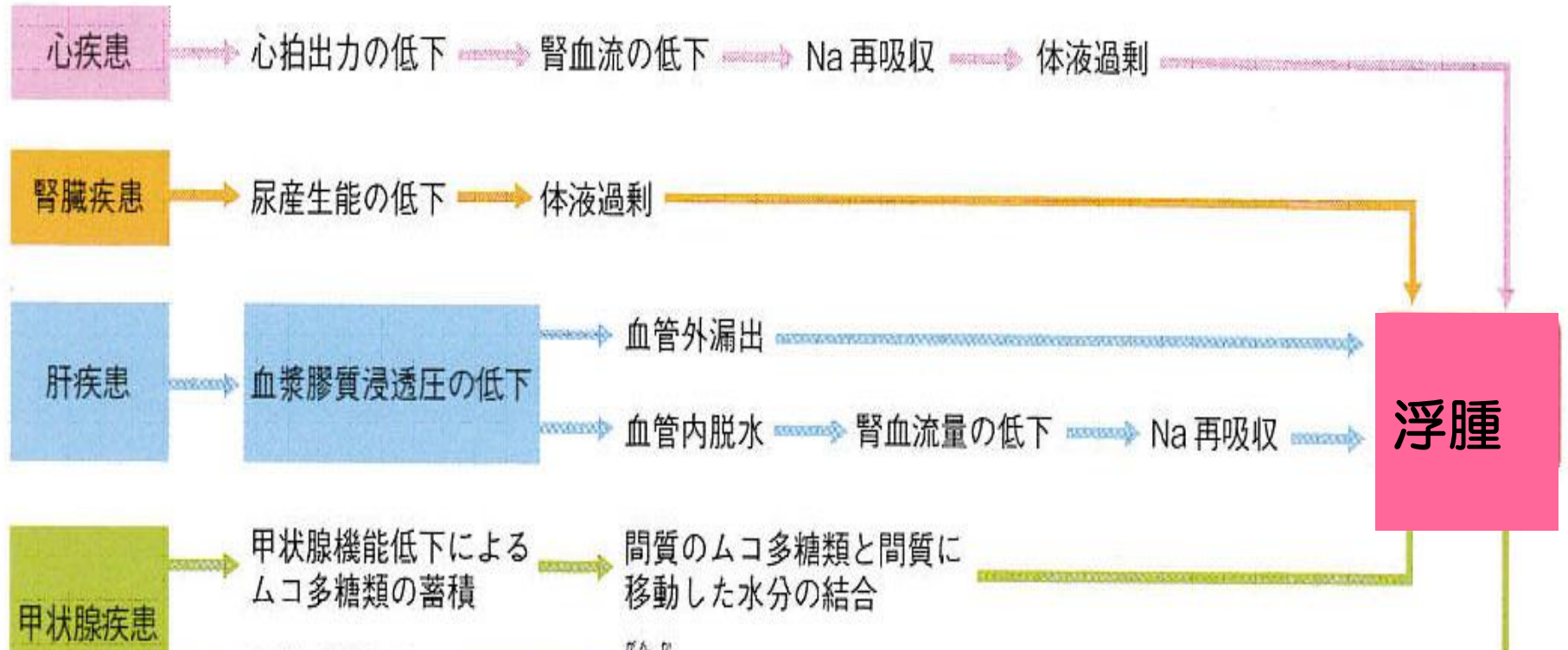
(二) 浮腫の基礎知識

体液の分布

- 成人では全体重の約60%が体内水分(体液)である。乳幼児ではこれより多く、高齢者では少なくなる。
- 体液は大きく細胞内液と細胞外液に分けられる。細胞内液は細胞内にあって細胞の代謝を担う液性成分である。細胞外液は血管内の血漿と血管外の間質液からなる。
- 体液の2/3が細胞内液で、残り1/3が細胞外液である。細胞外液の1/4が循環血漿量(体重の約5%)で、3/4が細胞間質液(体重の約15%)である。



浮腫が起こる原因



二、中医における津液の代謝

- 「素問・経脈別論」「飲入於胃、遊溢精気、上輸於脾、脾気散精、上歸於肺、通暢水道、下輸膀胱、水精四布、五経並行」
- （飲は胃に入り、精気を遊溢し、上がって脾に転輸し、脾気は精を散じ、上がって肺に歸し、水道を通暢し、下がって膀胱に輸す、水精は四布し、五経ともにめぐると記載されている

体内水分の代謝

生成

——脾胃の飲食物の受納、運化機能に頼る

輸布

脾の散精: 脾は運化を主る

- ①水穀精微
- ②水湿

肺の宣降:

- ①宣散体表皮膚、汗、蒸発
- ②通暢水道、下注膀胱

排泄

汗、呼吸、皮膚蒸発
尿、大便など

臓腑と津液代謝

肺

宣発 — 体表に輸布する

肃降 — 腎と膀胱に下輸する

通暢水道
(上焦如霧)

脾

散精 < 肺に上輸する

全身に散布する

運化転送
(中焦如漚)

腎

気化 < 清者を蒸騰上昇させる
濁者を膀胱に注ぐ

気化開合
(下焦如瀦)

津液の病理状態

津液 病態

- 津液不足 ——— 傷津、脱液、陰液損傷する（脱水状態など）
- 水液停滞 ——— 水、湿、痰、飲など邪気内生、蓄積する。

三、浮腫の病因病機

1) 風邪の外襲

風邪が外襲→肺を犯す→肺の通調失調→水道が不通→風と水が互いに塞ぎ止め合う→水液が皮膚に溢れ出す→水腫

2) 肌膚の瘡毒

肌膚の瘡毒→熱毒が内攻→肺脾を損傷→津液を気化できない→肌膚に汜濫→水腫

3) 水湿の浸漬

長期的に湿気の多い土地に住むなど→水湿が内侵→脾陽を困遏→水湿の運化失調→肌膚に汜濫→水腫

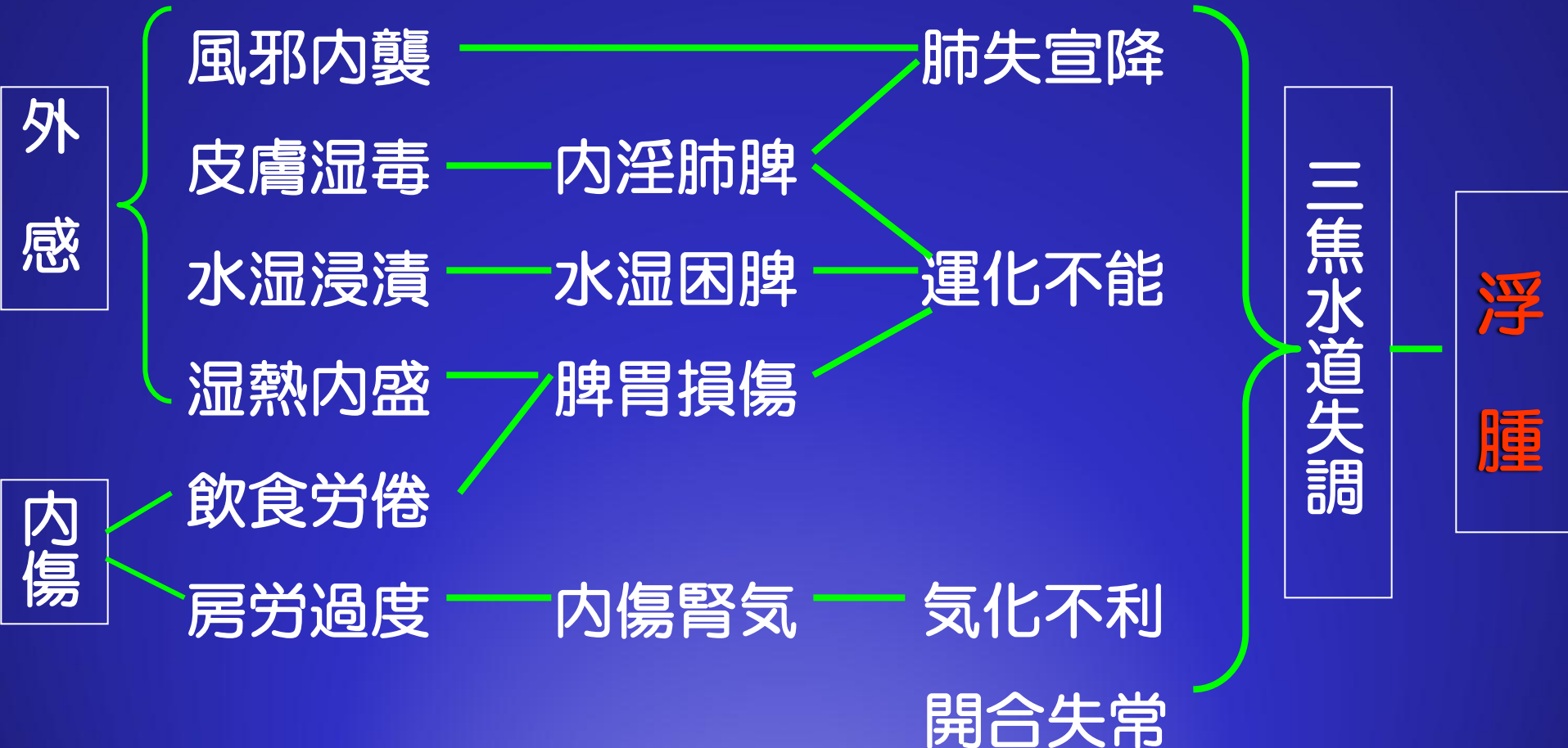
4) 飲食の不摂生

過食→痰湿が化生
 栄養不足 脾気を養えない } →脾の運化機能失調→水滞→肌膚に汜濫→水腫

5) 過労

節度ない性生活 } 腎精が消耗→腎気が不足
 出産回数が多い } →膀胱が開合不利
 過労→脾気を損傷→脾気が不足→運化低下 } 水湿が壅滞肌膚に汜濫→水腫

病因病機



四、浮腫の分類と弁証

(一) 陽水と陰水

陽水

- ・ 発病が急激で体の上部が浮腫、表証、熱証、実証の病態を呈する、皮膚の色が黄赤、便秘口渴、脈像浮数滑などが見られる。

陰水

- ・ 徐々に起病し、先ず下肢が浮腫み、皮膚の色は薄白或は暗い、口淡、軟便、脈は沈遅など寒証、虚証の病態を呈する。主に脾腎虚弱、化水治水出来ないため生じる水腫である。

(二) 五 水「金匱要略」

- ・ **正水**：全身浮腫、胸が脹満して喘を伴う、脈像は沈遅（主に脾腎陽虚、水停胸腹、上迫於肺などによって生ずる）。
- ・
- ・
- ・ **風水**：急性発病、発熱惡風、浮脈、関節疼痛、浮腫は顔面部に比較的甚だしい。（主に風邪侵襲、脾胃気虚、肺失肅降、通暢水道ができなくなる）。
- ・
- ・
- ・ **皮水**：発病緩慢、全身性浮腫で、肢体の沈重感無汗、皮膚が冷え、四肢の陷性水腫が、比較的重い（多くは脾虚湿盛で、水邪が皮膚に溢れる）。
- ・

石水：腹が脹満堅い石のように、喘は伴わない脇

- ・ の下が引っ張られて腫れ痛む、或は水腫は
- ・ 腹部に偏る、脈が沈で（多くは腎陽虚弱で
- ・ 水を化することが出来ない、脾肺とも一定
- ・ の関与する）。

黄汗：「金匱要略」により、汗が出て衣服をぬらすと、黄柏の汁のような色が付くため、黄汗を称する。発熱、口渇、胸部が張って苦しい、四肢顔面がむくみ、小便の出が悪く、脈が沈遅などである。（主に水、湿、熱など病邪が結び付いて蒸すため、湿熱が血分を傷つける場合は瘡瘍も併発する。

(三) 浮腫の鑑別

水腫と鼓脹の弁別

	水 腫	鼓 脹
特徴	全身水腫・顔あるいは足から始まる 重症者では腹部脹大・腹水がある	単独で腹部が脹匐大，脹満・腹部絡脈の拡張・四肢には浮腫はない・末期には足の腫脹がみられる
皮膚の望診	初期：光沢ある 末期：光沢なし	顔色が暗くて黒い・上半身皮膚には糸のようなクモ状血管拡張と手掌の赤痕がみられる
病位	肺・脾・腎	肝・脾・腎

弁証のポイント

陽水と陰水

	陽 水	陰 水
経過	短い	長い
発症	急激	緩慢
浮腫の部位	おもに顔	おもに足
皮膚の望診	薄い.光沢がある	黄色あるいは灰色で艶がない
皮膚の触診	押すと陥凹してすぐに元に戻る	押すと陥凹してすぐには元に戻らない
虚実弁証	実証	本虚標実証

1) 基本原則：発汗・利尿・瀉下逐水

2) 具体治則：

	治則	治 法	
		主な治法	配合する治法
陽水	祛邪	発汗・利水・攻逐	清熱解毒・理氣化湿
陰水	扶正	健脾温腎	利水・養陰・活血・祛邪

浮腫の三焦による弁証論治

三焦	発症機序	症 状	治法・方剤
上焦	外感風湿→肺気不宣 (肺は水道通調を主る)	瞼と顔面の浮腫、悪風、 発熱、咳、咽痛、舌苔薄 白、脈浮	[宣肺利水] * 越婢加朮湯 * 苓甘姜味辛夏 仁湯
中焦	飲食失調→水湿困脾 (脾は水穀を運化する)	四肢、全身の浮腫、下 痢・軟便、倦怠無力、食 欲不振、顔面が悪く、艶 がない、小便が出にくい 舌淡白、苔白滑、脈沈弱	[健脾利水] * 五苓散 * 茵陳五苓散 * 柴苓湯 * 啓脾湯
下焦	久病消耗→腎陽不足 (腎は水を主る)	全身特に下半身の浮腫、 腰冷痛、手足の冷え、尿 量減少舌淡胖大、苔苔白 滑、脈沈遅	[温腎利水] * 真武湯 * 八味地黄丸 * 牛車腎気丸

浮腫三焦病機

1) 基本病機：

肺の通調失調、脾の転輸失調、腎の開合失調によって、水液が内停し、氾濫して水腫になる

2) 病 位：

肺・脾・腎

浮腫の病因鑑別

腎	ネローゼ 症候群	高度、全身（腹、胸水も）	三高一低（陰水）
	急性糸球体腎炎	主に顔、まぶた	血尿蛋白尿高血圧（風水） 咽喉炎、ASO, ASK
心	心不全	夕方足踝に初発（寝るでは仙骨部）	呼吸困難、肝腫脹。 心疾患（動悸、雑音）
肝	肝硬変	腹水著明	肝機能障害、脾腫脹
その他	ステロイド性	下部（moonfaceは浮腫ではない）	ステロイド 投与の既往
	粘液水腫	陥凹ない	知的発達障害、遅脈肥満
	妊娠浮腫	下部 終わりの3ヶ月、妊娠末期	
	飢餓浮腫	下部 長期飢餓の後、アルブミン低下、アシトシス	
	脚気	VB1欠乏、脈圧増大、速脈、頻脈	

五、弁証論治

A、陽 水

1、風水汜濫

【症状】眼瞼浮腫、続いて四肢及び全身腫れてくる、勢いが急であり、多くは悪寒発熱、関節酸痛、小便不利。風熱に偏るものは、咽喉腫れ痛み、舌質紅、脈浮滑数など。風寒に偏るものは、悪寒咳、喘息、舌苔薄白、脈浮滑或は緊が見られる

【治法】散風清熱、宣肺行水

【方剂】越婢加朮湯加減

2、湿毒浸淫

【症状】 眼瞼浮腫が全身に及び、小便不利、全身発瘡、甚だしいものは爛れも見られ、悪風発熱舌質紅、舌苔薄黄、脈浮数或は滑数。

【治療】 宣肺解毒、利湿消腫

【処方】 麻黄連翹赤小豆湯合五味消毒飲
(麻黄、杏仁、桑白皮、連翹、赤小豆、甘草、生姜、大棗、金銀花、野菊花、蒲公英、紫花地丁、紫背天葵)

3、水湿浸漬

【症状】 全身水腫があり、小便短小、身体困重、胸悶、食欲不振、吐き気、舌苔白膩、脈沈緩。発病は緩やか、病程経過は長いである。

【治療】 健脾化湿、通陽利水

【方薬】 五皮飲合胃苓湯

（桑白皮、橘皮、生姜皮、大腹皮、茯苓皮、蒼朮、厚朴、陳皮、甘草、生姜、大棗、桂枝、白朮、沢瀉、茯苓、猪苓）

4，湿熱擁盛

【症状】 全身浮腫、皮膚が突っ張られてカピカピする。胸脘痞悶、煩熱口渴、小便短小、或は大便秘結、舌苔黄膩、脈滑数である。

【治法】 分利湿熱

【方剂】 疏鑿飲子

(商陸、沢瀉、赤小豆、椒目、木通、茯苓皮、大腹皮、檳榔子、生姜、羌活、秦艽)

B、陰 水

1、脾陽虚衰

- **【症状】** 全身浮腫、腰の以下は酷い、完腹脹満、食欲不振、四肢冷え、尿少軟便、舌質は淡白、舌辺は齒痕など、舌苔は白膩或は白滑、脈沈緩或は沈弱である。
- **【治法】** 健脾温陽利水
- **【方剂】** 実脾飲加減
(附子、乾姜、白朮、甘草、厚朴、木香、草果、檳榔子、木瓜、生姜、大棗、茯苓など)

・ 2、腎陽衰弱

- ・ 【症状】 全身浮腫、腰以下特に酷く、押さえると凹むが消えにくい、腰膝酸軟冷え、尿量減少或は増加、四肢冷え、寒がり、倦怠顔面灰滯或は光白、舌質胖淡、脈が沈細無力
- ・ 【治法】 温腎助陽、化氣行水
- ・ 【方劑】 濟生腎氣丸合真武湯
(地黄、山藥、山茱萸、牡丹皮、茯苓、沢瀉、附子、桂枝、牛膝、車前子、芍藥、白朮、生姜)

六、エキス剤の応用

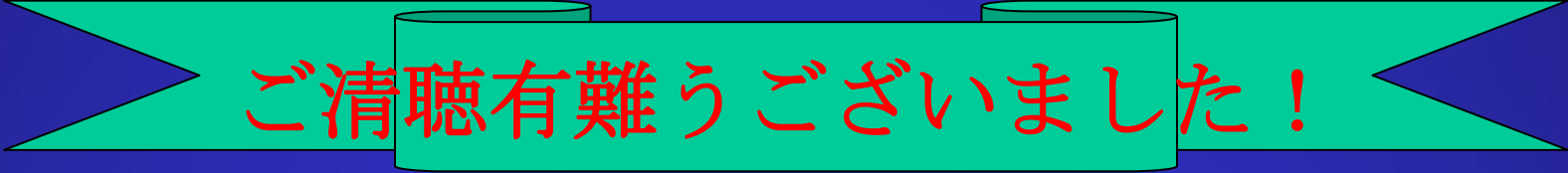
浮腫には肺気不宣の咳喘息浮腫乏尿に越婢加朮湯や麻杏石甘湯、麻黄湯加猪苓散が良い；脾虚が強ければ防己黄耆湯合五苓散を、腎虚が強ければ、真武湯合五苓散や八味地黄丸を用いる；柴苓湯も用いられる

利水滲湿は五苓散、猪苓湯、防己黄耆湯、木防己湯、茯苓飲など

温化水飲では苓桂朮甘湯、真武湯、実脾飲など

清熱利湿では茵陳蒿湯、五淋散

蛋白尿には脾虚気陷に四君子湯合防己黄耆湯を、腎虚に六味地黄丸や八味地黄丸を、蛋白尿の酷い時に防己黄耆湯を併用する



ご清聴有難うございました！